

2012年11月21日/ 第14回図書館総合展 第2会場（アネックスホール202）

「千葉大学アカデミック・リンクは進化する」：新しい学習環境の創造と課題

### 参加者 アンケート 集計結果

当日参加者数：168名 アンケート提出数： 85件

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成することを目的とし、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のフォーラムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。（なお、ご記載いただいた内容は、アカデミック・リンク・センターのホームページに掲載し、広く紹介いたします）

#### 1. 本日のフォーラムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・質問等、先輩に聞けるのが良い。大変刺激になりました。
- ・会場からの質問の意識が高くてQ&Aの時間が良かった。学生はたくさんの授業が見られていいなと思いました。先生は競争になるので、大変だなあ。
- ・新しい空間スペースに「コンテンツ」、「場所」、「サポート」を軸とした学生起点のサービスの提供があつたことを、理解した。
- ・具体的な利用の話が聞けた事。
- ・あかりんアワーについて、教員だけでなく、教職員の協力を得られているのがとてもよいと思いました。大変かと思いますが、継続されるよう期待しております。
- ・蔵書にとどまらないコンテンツの作成も期待しています。
- ・授業内容の公開や問題バンクについてOSSを利用されているとは思わなかったです。サポート担当に大学院生を採用している点は感心しました。非常に良いと思いました。
- ・千葉大の図書館は、“面白い”という印象を持った。国立大学の図書館で「授業配信」、「教職学生協働の取り組み(ex あかりんアワー)」を実現されていることに非常に刺激を受けた。
- ・教職協働がアカデミック・リンクのような活動によって大学が活性化し、学生に良い刺激を与えていたのだろうと思った。
- ・勉強になりました。自分の学校でも真似できる部分があれば、参考にさせていただきたい。
- ・見る、見られる空間としてのあかりんアワーの図書館としてのあり方が参考になりました。
- ・コンテンツ、場所、人的サポートをうまくリンクさせることができれば、学生の自立した学習をバックアップするだけでなく教員、職員、学生の距離が縮まるのだという良い例を教えていただきました。
- ・理系の学習支援という視点が、新しかったです。新しい技術を上手く使っていくということを考えなくてはと思いました。
- ・教員、図書館員、学生のコラボで実現した。
- ・プロジェクトの内容がよくわかりました。
- ・アカデミック・リンクの提供するコンテンツ、場所、人的支援が具体的によくわかりました。
- ・既存のハード、人材を活用して新しい取り組みを生み出している実例がよくわかりました。
- ・アカデミックの様々な側面の取り組み。
- ・学生の「学習の質を高める」という抽象的な目標が具体的な試みを聞かせて頂いたことにより、より身近にとらえられるようになりました。
- ・アカデミック・リンクのリンクとは、1対1のリンクではないのだということ。特に学内機関とのリンクには興味を感じました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・参加する学生、あかりんアワーの取り組みが参考になりました。
- ・具体的な活動内容を説明頂き、図書館の利用を越えた次元で学生の知的創造を行うことを知り、感銘を受けました。これからも先進的な取り組みを続けていかれることを期待します。

## 1. 本日のフォーラムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・アカデミック・リンクのそれぞれの機能、人的支援、空間の提供、コンテンツの提供について丁寧な説明がありよくわかりました。
- ・やろうと思えば教員・職員・学生が図書館を中心として連携し、協力し合えるということが分かり感動しました。自分も図書館に帰って活かしたいと思います。
- ・AL が場所の提供だけでなく、コンテンツ提供や、人的サポートを含めて行われている様子が良く分かった。
- ・新しい取り組みをされていて、とても勉強になりました。
- ・あかりんアワーの話をじっくりききたかったのですが、若干早口でメモをとりきれなかったのが残念です。
- ・“図書館からの発信” というのがいかに大切かという事を改めて感じました。
- ・大学全体での協力体制。
- ・1210 あかりんアワーについて、週2回の開催を継続するための取り組みがすばらしいと感じました。
- ・とても参考になりました。
- ・昨年の総合展でもお話を聞き、今回のフォーラムを大変楽しみにしていましたが、大学全体から協力を得てさまざまな企画を行っていることが大変すばらしく参考になりました。
- ・教員や他部署からの協力を受けながら、多様なサービスを行っているということ、固いことからやわらかいことまで行っているということを知ることができました。
- ・1210 あかりんアワーの視点が図書館として広がりがあって興味深かったです。
- ・先進的な取り組みの状況が理解できました。すばらしいので目標にしたいと思います。
- ・取組実態がよくわかりました。(院生サポート、昼夜セミナーについて)
- ・5. 「見る」「見られる」→私の大学にはそのようなスペースがないのですが、学園祭の時だけでも 1210 あかりんアワーのようなものができるのではないかと参考になりました。
- ・発表全体を通して、学生にとって、学習とか人格形成を楽しんでできる大学だなと思いました。
- ・大学図書館の新たな試みとしてはさまざまなことをされていて新鮮でした。一方でこれが図書館か、という思いもありました。
- ・(プログラム番号) 4. と 5. 参考になりました。ALSA の気づき「答えを教える必要はない。」あかりんアワー 楽しいことをやりつつ、図書館である意義、総合大学としての目的をきちんとぶれずに行っていること、など全般的に。
- ・教員の研究紹介を目的とする活動に興味を持った。
- ・学習支援を大学全体でサポートする環境としてとても参考になりました。
- ・大学院生(ALSA)による学部生の支援をすることで、ALSA 自身も振り返り、成長(進化)すること(できること)は、大きな成果であると思いました。
- ・学生のニーズを把握し、新しい企画を立案し、試行するという手順を確認することができてよかったです。
- ・教員の「研究者」としての側面を学生に見せる試み、というのは非常に面白かったです。
- ・大学全体で動く姿勢が重要と感じた。
- ・國本先生のお話で、図書館、学校側の企画で、先生との距離が縮まるのは確かに学生にとって「学び」に近づきやすくなるものだ、と感じました。
- ・多様な取り組み事例が参考になりました。
- ・学生による学習支援について専門分野全部そろえる必要がないという話は意外な発見になった。
- ・ラーニングサポートの学生による試行後のふりかえりが、職員の事前の予想と差がある、というのが興味深い。そういう学生からの視点をどうひろっていくのか、考えるきっかけになった。

1. 本日のフォーラムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・あかりんアワーという企画を初めて知りましたが、非常に興味深い内容でした。学生が気軽に新しい知識に触れることができるというのが、よいと思いました。
- ・1210 あかりんアワーで、全学的に図書館に人をまきこんでいるところがすごいと思いました。
- ・あかりんアワーがとても面白いと思いました。決して、図書とのつながりを切らない(ブックリストなど)というところが、すばらしいと思いました。(事例のスライドもわかりやすかったです。)
- ・文系と理系で学習相談件数に大きく違いが出ているということ。
- ・学生への知識の付与ではなく、自ら考える能力の養成の重要性について再認識しました。
- ・図書館というよりは教学での取り組みについて知ることが多かったです。
- ・学生の学習の質問向上につながる様々な試みに大変感心いたしました。より学生の学習活動に密着した図書館活動の重要性を再認識いたしました。
- ・ハード面も必要だが、ソフト面の充実が必要なことを再認識しました。
- ・4年生大学と短大の違いをあらためて痛感させられました。院生の活用は無理ですが、教員の協力を得られれば、学習相談会的な企画は実現させられそうに感じました。本学でも似た企画ができるか持ち帰ります。
- ・(プログラム番号) 4. にて、自分で考えることができるようになることが目的で、解答を教えられることではない、というフレーズがものすごく新鮮で納得できました。
- ・貴重なお話をありがとうございます。大変参考となるお話でした。
- ・ハイブリッドな人的資源の重要性。
- ・様々な電子媒体を活用し、学生の個々のニーズに応じた学習支援は非常に効果が期待される。
- ・「1210 あかりんアワー」の取り組みにより、図書館に対し興味関心が集まっていることに共感を覚えました。
- ・e-ラーニングの構築、授業の撮影。
- ・「あかりんアワー」の場所の構造、利点がよくわかりました。活動が「見える」ということが重要ですね。教員や他部署との連携もすごいと思います。
- ・大学全体で取り組まれていることで、幅広い取り組みを実現されていることがわかりました。
- ・ALSA の学習相談を利用する人が多い(130件/3か月)、理系の利用が多いというのだと、知りました。
- ・1210 あかりんアワーは空間と人をうまく活かしていると思いました。学生にとっても刺激的でよい取り組みだと思います。
- ・数学、物理、化学等の、基礎学力の向上には寄与すると思う。
- ・学生が図書館に集まる環境づくりが徹底しており、とても感心しました。特に 1210 あかりんアワーのように週に2回、内容を変えてプレゼンコーナーでイベントを企画されているのは他の図書館ではなかなかない試みだと思います。
- ・1210 あかりんアワーを本学でもやってみたいと思った。
- ・取り組みが具体的に分かりました。どの話題もこれから大学でも形に差異こそあれやっていかなければならない内容が含まれていると思います。
- ・院生の活用方法がよくわかりました。
- ・録画配信といったといった e-ラーニング的なことも、ラーニングコモンズに含まれていること。
- ・全職員、学生をまきこみながらあかりんアワーを開催されていることがとても参考になりました。
- ・「あかりんアワー」で図書館に注目を集めるというのは参考になりました。
- ・あかりんアワーと ALSA
- ・一人一冊のブックトークというのは意外な感じだが準備が楽そうで良いと思う。
- ・まだまだ図書館ができる事がある、ということ、可能性を知ることができて大変うれしく思いました。

## 1. 本日のフォーラムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください

- ・図書館の企画、実行力が問われる時代だなと思った。立派なハコでなくてもコンテンツを充実させれば図書館を活性化できる、利用者の目を図書館に向けることができると思った。
- ・ALC の詳しい取り組み内容がわかつてよかったです。姉川先生による ALSA の学生スタッフの話の中で、「考え方を教える」というものがあったが、それはとても重要なことであると思った。考えてそれを組み立てて表現する能力はやはり大学生には必須のものであると思うので。

## 2. 本日のフォーラムで、よくわからなかつたこと、疑問に残つたことがあればお書きください。

- ・多様な学生に対するサポートを展開する背景には大学生における研究能力、学習能力のダウンがあるのでしょうか。(貴校を含めて。)
- ・新しい空間での学生において、定量的な学生の変化を今後も継続して教えていただきたい。
- ・他大学で参考にされた空間をお聞きしたかった。
- ・教員の協力はどのように推移していますか。多くの教員からどのように協力していただいているか。教員に参加をうながす方法はどのようにしていますか。
- ・成果はよく見えたようじ感じる。それまでの過程(苦労話等)も伺える時間があるとうれしかった。
- ・全学的にまきこんだ「あかりんアワー」を進めるにあたって、誰が、どのように構築していったのか?(自学ではかなり難しい。)
- ・Moodle で問題の DBSC は素晴らしいが、同じ教科の先生同志プライドやら隠したい情報などがあるようでお互いの知識や情報を他では(担当学生以外)公開したくない、と公言している。このようにオープンに授業や問題を出している千葉大の教員や教職員の協力に感動しました。
- ・なぜこのような空間にしたか(活動とのリンク性)を、もう少し話をしていただきたかった。
- ・学生が十分授業に集中しなくても後で勉強すればよいということになって、結局あまりやらなくならないか。便利なものはよいが便利すぎて逆に問題になることはないか。
- ・お話のスピードが速かったので You tube で復習します。
- ・プレゼンテーションスペース以外の場所についても、実際に使ってみての使い勝手の紹介もあると、よりよかったです。
- ・限られた資材、人材で新しいことを次々とはじめれば、やめたこともあるはず。廃止した取り組み、合理化したものなどどのようなものがあったのか。
- ・数時間ではわからないことが多いです。
- ・スライドで見逃したところがあったので、スライドを公開する場合はもう一度みてみたいです。
- ・今回のテーマについて、教員・学生の取り組みは分かったが、図書館職員がどうかかわっているかが、分かりづらかった。また総合的な企画がどのようになされているか知りたかった。
- ・大学院生にアシスタントをお願いするにあたって、その資質をどのように判断して選択するのか、や、回答に誤りがないかなどのことが気になりました。
- ・1210 あかりんアワーは web などいかのように広報しているのか?
- ・いろいろな取り組みで教員ではなく大学職員という職種の方々はどういった役割を果たしていらっしゃるのか。(いろいろな活動をひっぱっていっているのは、アカデミック・リンク・センターの教員の方だと理解しましたが・・・。)
- ・教員の方々と SA の方とどういう関係を築いていらっしゃるのか。

## 2. 本日のフォーラムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください

- ・教務課と教員との打ち合わせ、話し合いの問題点や困難なところ、解決方法など。
- ・Moodle というオープンソフトを選択した理由、メリット。
- ・あかりんアワーの観覧者の身分の統計などがあるか？
- ・藤本先生のお話の中で Moodle を通した小テストの試行の話がありましたが、問題自体は専門の先生方が考えたオリジナルのものなのでしょうか。それとも既刊の出版物のデジタル版なのでしょうか。→丸善様なのでしょうね。解決しました。
- ・著作物が映りこんでいる映像については現時点ではどのようにしているのでしょうか。
- ・なぜ理系中心の取り組みなのか、という点がよくわかりませんでした。
- ・図書館利用との連動性の有無についてはどのような感じか知りたかったかと思いました。また、オンラインクラスルームで著作権について困っておられるようでしたが、司書へのヒアリングなどはないのでしょうか。
- ・学生の参加意欲 (=人数) の経時推移はどうでしょうか。
- ・参加する学生で学習支援デスクでの SA の相談対応について、以下 2 点具体的な例が是非知りたい。
  - ①学生の自律的学習者としての成長を助ける相談方法について、どの様に考え方を教えているのか？
  - ②コンテンツ(資料)はどのように活用されているのか?(具体例)
- ・「あかりん」の意味が不明であったが途中で気が付きました。
- ・コンテンツ問題の電子化。
- ・学習支援デスクで担当する院生の適正判定やスキルアップ(研修)をどのように実施しているのか知りたい。
- ・セミナーやワークショップを行ってもなかなか学生が集まらなかったり、教員の協力が得られなかったりするので、そのあたりの工夫をもう少しお聞きしたかったです。
- ・全体の事業評価、指標と方法。
- ・学習コンテンツの作成について、場所、機材と労力をかけてやられている目的があまりわからなかった。(復習のみ?)
- ・できれば、パワーポイントの資料をいただきたかったです。
- ・コンテンツ作成の問題点として著作権は大きな問題ですが、その点の回避なり解決策が具体的に決められていない点は驚きです。今後の策が具体的に出た場合の報告を期待しています。
- ・授業録画における著作権処理の最終形がはつきりとはわからなかった。(課題事項のことですが、日々蓄積されているはずなので。)
- ・1 つの授業を公開するまでに掛かる時間。
- ・問題集作成にかかる時間、動画は院生が作成していたが、問題集は教員が作成しているのか。ALSA は無給なのでしょうか。
- ・教員のオフィスアワーについて研究室で個々に行うのか。図書館 or アカデミック・リンク・センター内にコーナー(部屋)を設けているのか。どのように行っているのか。※質疑応答で解答いただきました。
- ・より具体的な学生の相談内容など興味がある。

## 3. アカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・図書館企画マネジメント、マネジメントに必要な要素、多機能図書館での図書館企画のメイン、サブ、重みづけ。
- ・月間スケジュール

3. アカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・学生が必要としているキャンパス内の空間・サービスの在り方を上野武先生をまじえてセミナー開催して欲しい。
- ・教員や学生向けのセミナー
- ・実際の施設の見学とセミナー
- ・以前の貴センターのお話では学内の横断的な組織づくりに苦心されたとのことです。各部署のテリトリーの問題もあるかと思います。そのあたりの実務的(組織づくり)なお話を、お伺いできればと思います。
- ・特に今ありませんが、今後も色々なテーマを取り上げてください。期待しております。
- ・ALSA の学生さんに実際に活動してみての感想や今後の抱負を発表してもらいたいです。
- ・図書館のカウンタースタッフが学生との対応の中でリサーチする方法、コツなど。ここまで支援ができるようになるにはリサーチが大変だったと思われますので。
- ・あかりんアワーをぜひくわしく。特に苦労した部分を。國本先生にゆっくりめにお話いただきたい。
- ・教科書、問題集のデジタル化による学生の学習状況の変化→データベース化、教員の手間の省力化はメリットとしてあると思いますが、学生の意欲に変化はあったのか、効果をおうかがいしたく存じます。
- ・今後もアカデミック・リンク・センターでの活動報告等行っていただければと思います。
- ・アカデミック・リンクにおける図書館レファレンスの役割。
- ・今回は竹内先生のお話をほとんどきけなかつたので竹内先生にご講演いただきたい。
- ・あかりんアワー
- ・収書またはコレクションディベロップメントについて(電子図書の購入・提供/冊子体とのすみわけ/指定図書)
- ・千葉大での取り組みに加えて海外での例があれば、その内容と特に成果がでていればそれについても紹介して欲しい。

4. 本日のフォーラムの内容、大学教育の情報化などについて、自由にご意見をお書きください。

- ・大学の図書館は教授だけのものではないのでこれからも幅広く色々なことに挑戦してください。
- ・全学での取り組みは難しい事だと思います。他大学への先駆として発展・進化を期待しています。
- ・経過を事あるごとに報告・発表して下さい。
- ・色々変化してきていると感じています。問題バンク等については、今後、有効に活用されていくと思っています。
- ・是非、本日のお話にあった PPT も公開してほしい。(動画はうれしいが説明資料もほしい) とても役に立つたので学校に戻り紹介したい。
- ・各担当別にわかりやすい説明で良かった。
- ・貴センターの見学の機会がありましたら是非お声をかけて下さい。
- ・今後も情報提供され、日本全体の大学へ刺激を与えて下さい。
- ・昨年の総合展でお話をきき、すばらしいなーと感動した者です。試行・実践のご報告を拝聴しますます感動しました。
- ・大変、参考になりました。本学でもラーニングコモンズ等のあり方について再検討したいと思います。
- ・様々な点で色々参考になりました。ありがとうございました。
- ・フォーラムで活用されていたパワーポイント資料についてですが、支障なければ、ぜひゆっくり見させて頂きたいと思いますので、ご提供いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

4. 本日のフォーラムの内容、大学教育の情報化などについて、自由にご意見をお書きください。

- ・大変参考になった。SAによるサポートの様子、あかりんアワーの様子など。ぜひ見学に伺いたい。
- ・授業動画の著作権について非常に難しい問題ですね。
- ・とても勉強になるフォーラムでした。情報化、学習支援など理系向けのものが多いように思われるの文系学生をどのように拾っていくか等、考えていかなければならぬと感じました。
- ・さまざまな有意義な千葉大様の活動に感動しました。
- ・アカデミック・リンクの活動の担い手である教員、職員、学生をいかにまとめ組織化し、機能させているのか、その先進的な試みは大変参考になりました。
- ・まさに学生が能動的に取り組むことができるようなきっかけは本学でも取り入れたいと思っています。
- ・あかりんアワー：こうした企画は思いもつきませんでした。本学の場合、館内よりも学生ホールを活用した方が効果的かと感じました。次年度には実施できるよう準備を進めたいと思います。小規模大学では実現性は少ないというのが実感ですが、やり方を考えれば部分的には取り込めそうなヒントをいくつかひろえました。ありがとうございました。
- ・大変参考になりました。教員がたいへん積極的で協力的でうらやましいです・・・。
- ・通常の授業やゼミのみでなく、人間形成にまで広げたコミュニケーションの場としての企画が新しく感じた。
- ・教員との協働、学生との協働。
- ・初めてお聞きましたが、大変参考になりました。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・いつも発表を楽しみにしています。
- ・大変興味深いお話でした。ありがとうございました。
- ・電子テキストの導入が他国同様、日本でももっと進むのか、期待しています。
- ・ブックトークについては、似ているものでビブリオバトルというものがあるので、ぜひ開催してみていただきたいです。
- ・学生が必要とする情報化(技術先行でなく)を各大学が見極めなければいけない時期なのかと思いました。
- ・色々な活動、サービスを知ることができました。
- ・自館でも取り入れられそうな試みを知ることができました。学修支援、あかりんアワー。ありがとうございました。
- ・学ばない学生の多い日本においては、必要な取り組みであり意義があると思うが、自分で考えて、それをレポート上に表現する能力というか論理的に美しい出来栄えを追及する学生が増えたら良いですね。
- ・授業収録→配信というのは色々なかべがあり、また公開後の需要などを考えると難しいのだと感じた。
- ・本学の学習管理システムに対するかべとしてシステム上同じようなことがあり、できることが制限されてしまう。そこであきらめてしまっていたが、試行錯誤をつづけられていることを知りがんばってみようかと思えた。ありがとうございました。

5. ご所属について該当するものに○をつけてください。

- a. 学生 0名 b. 大学教員 1名 c. 大学図書館職員 56名 d. 大学職員（図書館職員以外） 4名
- e. 公共図書館職員 1名 f. 出版関係 2名 g. その他 17名（回答なし 4名）

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。（既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です）

お名前：( )

ご所属：( )

電子メールアドレス：( )

ご協力ありがとうございました。

※39名が新規に継続的な情報提供を希望